

## 巻頭言

会報第12号1報の発刊にあたって

日本医療秘書実務学会 会長 田中伸代

コロナ禍が続く中、会員の皆様には、それぞれのお立場で対応にあたり続けておられます。皆様に敬意を表します。

さて、2021年度も各種活動に制限がかかる中、全国大会をはじめとして、様々な活動を対面から、web・オンラインでの活動に切り替えることを余儀なくされました。しかしながら、本格的なオンライン活動も2年目ということになり、皆様の対応が昨年度に比べて非常にスムーズで、そのおかげもあり、無事に全国大会をオンラインで終了させることができました。

この2年間で高等教育におけるオンライン化は進み、新しい教育方法が次々と試されています。2021年度の後半はオンラインと対面の双方の強みを活かした教育がさらに進むことと思われます。小中高でも少しずつ変化しており、そこで教育された人達は、今までとは違った行動や考え方になることは必至です。

医療現場におけるDXも半強制的に進められたと言えるかも知れませんが、それによって効率化が進むことは否定できない現象です。そういった流れに対応し、さらに先へと行くことのできる人材の育成とともに、社会人の継続教育の機会を増やすことを本学会で行いたいと考えております。皆様の一層のお力添えをお願い申し上げます。

## 目次

巻頭言 .....	1
第12回全国大会 .....	2
第12回全国大会報告 .....	2
研究発表概要 .....	4
大会参加記 .....	7
事務局からのお知らせ .....	13
来年度の全国大会について .....	13
編集後記 .....	13

## 第 12 回全国大会

### 第 12 回全国大会報告

学会の完全オンライン開催も悪いことばかりではない！

大会運営委員長 小林利彦

令和3年8月29日（日）に、日本医療秘書実務学会の第12回全国大会が開催されました。私は、今回、同大会の運営委員長を任せましたが、何はともあれ、大きなトラブルもなく終了できたことに安堵するとともに、関係者の皆さまには深く感謝申し上げます。思えば1年前、本大会の運営委員長を仰せつかった折には、感染症の問題も1年後には落ち着いているのではとの思いから、浜松駅の近くにある大会議室を急ぎ予約したのですが、今回も参加者の皆さまとは現地（浜松）でお会いできないまま完全web（オンライン）での開催となりました。



私自身は、昨年度から小規模な勉強会等をオンラインでよく行っていましたので、たぶん何とかなるだろうなどと思ってはいましたが、全体のwebシステムを動かす事務局本部を川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）に置き、サテライト事務局となる浜松医科大学附属病院からプログラムの進行を行うことは初めての経験であり、最後まで少なからず不安がありました。それでも、川崎医療福祉大学の皆さま（スタッフ）のICTリテラシーが高いことや、昨年度の完全オンライン開催による経験値などもあって無事完遂することができました。

実際の大会では、浜松市在住で本学会の理事である大場さわ子さんによる総合司会のもと開会となりました。



最初に私の方から簡単な挨拶をさせていただき、その後、若草第一病院スポーツ整形外科部長・医療情報担当部長の今田光一先生に、「医療秘書として知っておきたい電子カルテの知識」という題名での教育講演をしていただきました。座長は、能代厚生医療センターの伊藤博紀先生にお願いしました。今田先生からは、電子カルテに関して、学生にも理解できる基本的な内容事項から臨床現場で問題となりやすい実務者レベルでの課題対応まで、本当に分かりやすく解説していただきました。今回はZoomウェビナーによる学会開催でしたが、Q&Aにいつまでも書き込まれる質問の多さに、講演内容の素晴らしさが表れているように感じます。

その後、学会賞授賞式を経て、一般演題としての研究発表が（お昼休みを挟み）10演題ありました。私自身、本大会には第4回から継続参加していますが、例年以上にレベルの高い発表が多かったように感じます。特に、感染症内科（COVID-19 重点拠点）で医療秘書をしている兒玉恭佳さん（豊島病院）からの報告や、坂田智代さん（東京都済生会中央病院）からの全国レベルでの勉強会企画、田中有希子さん（沼隈病院）からの院内業務の可視化を通じた教育システムの構築などのお話は、個人的にも強く印象に残った講演でした。



最後に、私の拙い司会進行のもと、「次世代の医療秘書・医師事務作業補助者に期待すること～入職前教育と入職後教育のあり方～」というテーマでのシンポジウムを開催させていただきました。シンポジストとして、福岡医健・スポーツ専門学校の前田真樹さんと滋賀短期大学の沖山圭子さんには「入職前教育」の観点から、日本医師事務作業補助研究会の矢口智子さんと済生会新潟第二病院の木村雄介さんには「入職後教育」の観点から現況と課題について語っていただき、その後の総合討論へとつなげました。結論的には、入職前の教育関係者と臨床現場の実務者が、今後とも協働していくことが大切だということなのですが、詳細な内容や私自身の考察などは別の機会にでも文書として残してみたいと思います。

とにかく、9:50 から 16:30 過ぎまで長丁場にわたる完全オンライン開催でしたが、皆さま方の発表内容がとても素晴らしく、個人的にも大変勉強になりました。また、大会終了後にはウェブ上での懇親会にて参加者による意見交換が長く続き、大会運営委員長としても、参加者の皆さまに一定の満足感は与えられたのではないかと自負しています。

最後になりますが、感染症の蔓延にともない、オンライン開催での学会や研究会等が一般化しています。医師のように遠方地での学会や研究会等へ出向くハードルが低い職種とは違い、医療秘書や医師事務作業補助者にとって、宿泊を伴うような研修会等への参加は（経済的にも）容易でないものと考えます。今回のように、完全オンラインで学会や研究会等が開かれ、その参加費が比較的安価であれば、これまで参加しづらかった方々が、学会や研究会等をより身近なものとして感じてくれるように思います。実際、今回の参加者は 321 名であったと聞いています。正直、個人的には、参加者と皆さまと顔を合わせて議論したり、会の終了後に（飲食を含む）懇親会で語り合うのが好きですが、完全オンライン開催も悪いことばかりではない気がします。

いずれにしましても、来年度の学会開催に向けて、私自身もこれから 1 年間精進しつつ、皆さま方と再会できることを願っています。

## 研究発表概要

「患者視点から捉えるチーム医療」

佐藤麻衣（高松短期大学 秘書科）

チーム医療に関する文献を概観すると、各職種がそれぞれの立場からその実践に基づいて論じているものが散見される。そこには、チーム医療に参画する多様な職種が登場するが、それぞれの職種がどのようなはたらきをしているのかが不明確なものが多い。他職種が連携することで患者に質の高い医療を提供することがチーム医療の目的の一つであるならば、各職種が患者の治療やケアのどの部分に関与するものなのか、患者の視点から捉えることも必要となろう。そこで、本発表は、チーム医療の構成員のはたらきを患者の視点から捉えることで、チーム医療を俯瞰的にみる試みである。

「病院事務職に求められる資質・能力について

～4 府県下の病院採用担当者への調査から～

岩本久美子（関西女子短期大学 医療秘書学科）

医療現場では、多職種連携医療の増加、女性の長期就労、タスクシフティングの推進等により、職員の働き方が変化してきている。

このような動向は、病院が事務職に求める資質・能力面について変化を与えているのではないかと考え、4 府県下 1,367 病院の採用担当者にアンケート調査を実施し、分析を行った。本調査結果では、採用時に重視する能力は、「コミュニケーション能力」「協調性」「誠実性」であり、今後 AI 時代に求められる資質・能力では、「コミュニケーション能力」「対人関係能力」「臨機応変能力」等が現在よりも必要になるとの結果を得た。

「医師事務作業補助者による医療の質の向上について」

庄武美加子（小樽市立病院）

当院は 388 床の地方公立病院である。がん、脳神経疾患、心血管疾患、認知症疾患を 4 つの診療の柱とし、2021 年 4 月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。

2019 年で既に高齢化率が 40%を超える地域で、がん治療の意志決定支援を行う機会を積極的にコーディネートするメディカルアシスタントの役割について報告を行う。

## 「東日本大震災から学ぶ医師事務作業補助者の災害対策について」

○細川治子（東北大学病院 医事課 医師事務支援係）  
鈴木信一・浅沼ゆか・高橋あかり

東日本大震災より 10 年の節目となる中、今年 2 月に福島県沖を震源とした M7.3 の地震が発生し、災害拠点病院である当院も危機感が高まった。

新型コロナウイルス感染症の流行により、災害訓練を行えない状況下では万全の備えが必要であり、東日本大震災を経験していない世代の医師事務作業補助者が増える中で、災害時に積極的に医師の支援を行うための知識の習得や、非常時への意識改革などに取り組んだ。

## 「COVID-19 重点拠点の感染症内科医療秘書の役割」

兒玉恭佳（公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 感染症内科）

当院は第二種感染症指定医療機関として、2020 年 1 月 29 日武漢からのチャーター機第 2 便受入を皮切りに、クルーズ船など多くの COVID-19 患者を受入続けている。

2021 年 1 月東京都の COVID-19 重点拠点となったことから更なる病床拡大を求められ、他科医師を当科に派遣してもらう診療体制から、全科医師が COVID-19 に関わる診療体制に変わっていった。それに伴い増大した医療秘書の役割について報告する。

## 「医師事務作業補助者・人材育成のための取り組み」

○坂田智代（東京都済生会中央病院 診療支援課）  
太田弘子（千葉県済生会習志野病院）

済生会は、日本最大の社会福祉法人であり、2017 年、私たち医師事務作業補助者（以下、医師事務）の施設間交流の場として「済生会 MA 会」を設立した。

済生会のスケールメリットを活かして、医師事務間の情報共有や勉強会の開催を定期的実施しているが、昨年度からはリモートでの活動にシフトし活動の継続に力を注いでいる。2021 年 4 月現在の会員数は 29 施設であり、この活動によって、医師事務の人材育成に寄与することを目指している。

## 「医師事務作業補助者向けの32時間研修を自施設で行う際の課題と工夫」

須和部隆代（浜松医科大学医学部附属病院 医事課）

当院では過去3年間に、採用された医師事務作業補助者に院内での32時間研修を計5クール行った。実際にはチームリーダーを中心に、テキスト「医師事務作業補助者のための32時間教本（小林利彦著）」を読み合わせることで実践した。

新規職員が年度途中に採用され効率的な集合研修ができないという課題があるが、1時間ごとの研修内容を記録として残し、より効果的な継続的かつ標準的な研修ができるように工夫している。

## 「医師事務作業補助者の教育システムの構築とその効果」

田中有希子（沼隈病院 医局 ドクターアシスタント）

医師事務作業補助者の普及が進んでいるが、多くの医療機関で人材確保と質的確保は容易ではなく、課題となっている。当院も例外ではない。

当院では、教育システムに関して、2019年5月より、大きな見直しをおこない、様々な取り組みを実践している。今回、その取り組みの意義について、検証を行った結果、早期離職率の低下や各職員スキルの標準化に一定の効果が得られたので報告した。

## 「医師事務作業補助者によるNCD登録体制の構築～当院の取り組み～」

○大木瞳（藤枝市立総合病院）

木内杏・白川元昭

2019年7月外科医師からNCD登録を医師事務作業補助者（以下、クラーク）で行ってほしいという要望があった。それまで当院のNCDはすべて執刀医が登録することになっており、外科医師の負担も大きく、また登録漏れや二重登録などの不備も散見されていた。

全くNCDに関わっていなかったクラークが正確な登録をできるような体制を、医師と相談しながら構築していった。それまでの経過を報告する。

## 「病院事務系職員における職場教育の現状と課題

～兵庫県下の病院への調査結果より～

石田朱美（姫路聖マリア病院 事務部医療秘書課）

病院事務系職員の職場教育は OJT が主流であるが、医療職の様な国家資格はない。そのため、それまでに受けてきた教育時間や経験等が異なるため、能力差がある。多様な経験をもつ者に職場教育を行う中で能力開発を行うために、職場教育の現状と課題を明らかにすることが必要と考えられた。

この度、兵庫県下の病院を対象とした質問紙によるアンケート調査とインタビュー調査を併用する実証研究を行った結果について報告した。

## 大会参加記

### 第 12 回全国大会での発表を終えて

高松短期大学 佐藤麻衣

今回は私自身はじめてのオンライン発表ということで、通信状態などの不安がありましたが、事前の接続テストなど細やかにご対応くださり、大会関係者の皆さまには心より感謝申し上げます。



今後も私の研究テーマである「医療従事者の働きやすさ」について、現場の声を伺いつつ研究を深化させていきたいと考えています。昨年続くオンライン開催となり、年に一度お会いするのを楽しみにしていた皆さまと対面することができず、残念な思いですが、いつかまた対面で交流できる日を楽しみにしております。

### 研究大会で発表させていただいて

関西女子短期大学 岩本久美子

第 9 回から研究大会に参加しており、この度初めて研究発表をさせていただきました。

シンポジウム「次世代の医療秘書・医師事務作業補助者に期待すること」では、入職前・後の教育に関わられている 4 名のお話を伺い、短期大学で入職前教育を行っております私には、今後の教育を考え、実践していくうえで大変参考になりました。



自身の発表では、川崎医療福祉大学院での研究結果を発表させていただきましたが、研究時から本大会で発表させていただくことを目標にしておりました。Web でオンタイムでの発表は初めてでしたが、大会前にリハーサル等もしていただき、安心して発表することができました。発表の機会を与えていただき関係者の皆様に感謝申し上げます。

## 第12回全国大会に遠方から参加して

小樽市民病院 庄武美加子

web開催の学会で初めて発表をさせていただきました。

今田先生の教育講演では電子カルテを監査する視点で前のめりに聞かせていただきました。

自身の発表に関しては、医療の質に関連する医師事務のコーディネートについてお話させていただきました。データに示す結果と現場で貢献度を実感する機会にはタイムラグがあるのかも知れないと分かり、貴重な学びを得ることが出来ました。

本大会の事務局や実行委員のご尽力により、遠方からも滞りなく参加できたことは感謝の念に堪えません。

皆さまの今後のご健康とご発展を心より祈念しております。



## 取り組みから得た学び

東北大学病院 細川治子

私たちは今回、「災害医療」「災害時活動」という非日常的で、実際に経験したことの無いテーマについて取り組みました。これまで個人によって差があった災害医療や災害時活動の知識や情報について、全員で共有できる形を見つけようという試みは、正に困難の連続でした。一つ解決するたびに、また新たに知らないことが増えていき、正解の無い結果と終わりの無い学びに、こうして挑み続けることが正に「研究」なのだと知りました。

初参加ながら、研究発表の機会を頂き、皆様の前向きなエネルギーに触れたことで今後の活力となりました。大会を運営頂きました事務局の皆様のお力添えに心より感謝申し上げます。





## どのような環境下でも学べることに感謝

豊島病院 兒玉恭佳

この度は、Web 開催による学会に参加させて頂き誠にありがとうございました。COVID-19 の収束が見えない中の開催でしたが、たくさんの貴重な御発表を聞かせて頂きましたのは大会運営委員の皆様のご尽力の賜物と存じます。私自身は初めての Zoom 操作による発表でしたが、温かい雰囲気でご配慮頂き安心して発表を行うことができました。直接お会いできなくとも皆様から頂きましたエールのお陰で、学会以降も日々現場で頑張ることができております。研修の場が減少する中、このような機会を提供していただき感謝申し上げます。貴学会のさらなる御発展を祈念しております。



## 充実した一日を終えて、感じたこと

東京都済生会中央病院 坂田智代

この度、日本医療秘書実務学会に初めて参加いたしました。諸先生方の講演や発表は、実務者として明日にでも役立つことばかりであります。特に、シンポジウムの「入職前・入職後の生涯教育」についてのディスカッションは興味深く、拝聴させていただきました。



私たちが取り組んでいる「済生会 MA 会」が入職後の教育と位置付けられ、これからの医師事務の成長には欠かせないものである、と僭越ながら感じました。試行錯誤しながらもオンラインセミナーという形に変えて継続して活動してきたことが決して間違えではなかった、と思える一日でありました。

## これからも学び続けます

浜松医科大学医学部附属病院 須和部隆代

今年は web での発表でした。コロナ禍でありながら、自院にて発表ができた事は大変感謝しております。同時に会場で皆さんを目前に発表できることがどれだけ充実していたか再発見ができました。



毎日が学びです。医師事務作業補助者としての毎日は何年この仕事をしていても常に分からないこと、新たな発見の連続です。本や資料を読み、調べ、仲間に聞き、医師に直接質問し一つ一つ自身

の引き出しを増やすと同時にノートやマニュアルに加え、後輩たちへ引き継げるものを作っていく。それが楽しくこれまで続けてきました。まだまだ学ぶべき事は山積です。

来年こそは、皆さんに直接お会いしてお話を伺いたいです。そして、新しい発見を周りの仲間にも伝えていきたいと思います。

## 明日への活力～第12回全国大会に参加して～

沼隈病院 田中有希子

日本医療秘書実務学会第12回全国大会がWebにて開催されました。

普段は業務に忙殺されて孤独に感じることもありますが、学会を通じて多くの先生方や同職種の皆様と再会や新しい出会い、そしてまた学術的にも大変良い刺激を受け、非常に充実した時間を過ごすことができました。

大会テーマは「次世代の医療秘書・医師事務作業補助者に期待すること」でした。今回の学会参加を通じて、私自身の「今やっていること」、そして「これからさらに何をやらなければいけないか」について省みる良い機会になりました。次年度の学会では今年よりもステップアップしている私で皆様に再会できますよう鋭意努力して参ります。

末筆になりますが、大会関係者の皆様、並びにご参加の皆様には、実り多い1日を提供していただいたこと深謝し、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



## 日本医療秘書実務学会 発表を終えて ～未経験者にも優しい学会に感謝～

藤枝市立総合病院 大木瞳

日本医療秘書実務学会第12回全国大会に、初めての参加でありながら発表をさせていただきました。ほとんど学会発表の経験がないため、演題応募にあたり非常に悩みましたが、大会運営委員長である小林先生の「学会発表が初めてという方の登竜門としてのアットホームな大会」との言葉に背中を押され、貴重な経験をさせていただくことができました。ありがとうございます。



私の発表は、日々の業務の中で試行錯誤しながら進めてきた事例発表になります。同じような問題を抱えている方たちに、何らかのヒントになれば嬉しく

思います。また、他施設の方の様々な発表から、当院でも早速取り入れたいと思う内容もあり、非常に有意義な時間となりました。開催にあたりご尽力いただいた大会関係者の皆様に、改めましてお礼申し上げます。

医療秘書・医師事務作業補助者の実務者として、また1人の研究者として学んだこと

姫路聖マリア病院 石田朱美

COVID-19の感染拡大により学会が多数中止になる中、WEB開催の学会で私自身が発表する機会をいただきましたことを大変嬉しく思っています。

今田先生の基調講演では、医師事務作業補助者として日々従事する業務を振り返り、自らの業務や考え方を再確認する機会をいただきました。一般演題では教育、現場それぞれのお立場から様々な視点で研究をなされており、私自身の研究にも繋がる貴重な発表が多数ありました。また、医療秘書・医師事務作業補助者の教育に関するシンポジウムでは、教育の現状と抱える問題点が多数浮き彫りとなり、興味深く拝聴致しました。



今後も更なる病院事務系職員の職場教育発展のため研究を続けて参りたいと考えております。

## \*\*\*学生参加記\*\*\*

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科4年 菅百芳

昨年に続き、2回目の学会参加となりました。私は、来年4月から医療事務職員として働きますので、その立場で皆様のご発表を拝聴いたしました。改めて分かったことは、私自身に不足する点や入職前に身につけるべき点です。医療従事者の方のご講演、ご発表やご意見すべてが刺激的でした。大学の講義とは異なる視点や発見など興味深いことが多くありました。4年間で学んだ知識ゆえに理解できたこともありました。また、命を預かる業務に携わる医療従事者としての責任の重さを一層感じました。COVID-19の影響でイレギュラーな対応を迫られる医療秘書業務の現状を知り、怖さと不安が募りましたが、医療現場で働けることの素晴らしさも同時に再確認できました。就職後も、学会や研修会に参加して学びを継続していきたいです。ありがとうございました。

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部医療秘書学科3年 井原涼葉

初めて学会に参加いたしました。ちょうど3年後期の病院実習を終えたばかりでしたので、とても興味深く、大変勉強になりました。ありがとうございました。医師の過重労働が問題となっている現在、医療秘書の存在が重要になっていることを改めて感じることができました。私は、治療を行う医師や看護師とは別視点で、コミュニケーションを通し不安を取り除くなど、患者さんに寄り添う存在になることを目指しています。スムーズな診療のために、医療スタッフと患者さんをつなぐ架け橋となれるよう、医学知識を高め、医師が本来の業務に集中できるように段取りマネジメントを行い、現場の即戦力になりたいです。入職前に現場の話を聞ける機会や、現場が求める知識・技能を学ぶ教育を受けることができることに感謝し、残りの学生生活も頑張ります。

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部医療秘書学科3年 山口亜梨沙

初めて学会に参加させていただきました。様々なお発表を拝聴し印象に残ったのは、医師の代行業務といっても行ってよい業務と行ってはいけない業務があり、その境目がはっきりしていないと故意ではなくても医行為をしてしまう可能性があるということに危険を感じたことです。

電子カルテは紙カルテより利点が多く便利ですが、一方で欠点もあります。ITが普及している現代、どれだけ上手く情報機器を使いこなせるかも医療秘書の能力だと改めて感じました。また、情報機器を使いこなせる能力の他にも、医療用語や医学知識が必要であるということ、各情報システムの特徴や働きについての知識も必要だと感じました。

医療秘書は近年、需要が高まっている職業ではないかと私個人は考えています。医師の長時間労働・多くの業務を支えるために医療秘書を配置し、医師の業務の軽減を図る取り組みは医師のためにも患者のためにもなります。私が目指す医療秘書も医療従事者として、高い志が必要だということを学びました。

## 事務局からのお知らせ

### 来年度の全国大会について

2022年度の全国大会については、日程が未定ですが、8月下旬から9月にかけて行くべく準備を進めております。決まり次第、学会のwebサイト等でお知らせしますので、しばらくお待ちください。

また、企画委員会による企画セッションを全国大会時、または別の機会に設ける予定にしております。こちらも決まり次第お知らせしますので、奮ってご参加ください。（2021/11/01 学会事務局）

### 編集後記

日本医療秘書実務学会『会報』第12号1報をお届けいたします。

第12回全国大会は昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。リアルなコミュニケーションはとれませんので寂しい面もありますが、オンラインならではの利便性により、全国各地から大変多くの方々に参加いただく事ができました。

会報の編集では、今回から、Microsoft Teams を活用し、スタッフ一同、『DX』及び時代の最先端を（なんとなく）肌で感じているところです。

発表いただきました皆さまには、業務ご多忙の中、原稿ご執筆にご協力いただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

会報へのご意見、ご感想等がありましたら、学会事務局までお知らせください。どうぞよろしく願いいたします。 （広報編集委員長 早田真樹）